

シラバス
(令和2年度)
理学療法学科
昼間コース2年生

学校法人 巨樹の会

小倉リハビリテーション学院

共生

共に学び 共に歩み 共に進む

私ども小倉リハビリテーション学院は、専門的な知識技術を提供する前に利用者の方々の立場に軸足を置き、思考することを第一義に考える専門家の輩出をめざしております。

本来サービスという言葉の持つ意味は利用者本位でなくてはなりません。特に保健・医療・福祉分野では、安全で個別性があり質の高いサービスの提供が相互の信頼を生むもの

と確信しております。

教職員および学生一同は建学の精神を心に刻み、次世代に残すべき人『人財』の育成をモットーに地域の皆様と「共」に学び・歩み・進むことをお約束いたします。

教育目標

- 一 心豊かに分かり合える、理学療法士・作業療法士であること
- 一 信頼される、理学療法士・作業療法士であること
- 一 暮らしを支える、理学療法士・作業療法士であること

令和2年度年間予定

令和2年度 年間予定

理学療法学科・作業療法学科(昼間コース)

	第1学年	第2学年	第3学年
前期	入学式 4月3日(金)	始業 4月1日(水)	始業 4月1日(水)
	オリエンテーション・面談 4月1日(水) ~ 4月2日(木)	面談 4月1日(水) ~ 4月2日(木)	講義 4月1日(水) ~ 4月10日(金)
	講義 4月6日(月) ~ 7月17日(金)	講義 4月6日(月) ~ 7月17日(金)	臨床実習(模倣・解釈) 4月13日(月) ~ 5月8日(金)
	補講・定期試験期間 7月20日(月) ~ 8月 7日(金) 8月11日(火)予備日	補講・定期試験期間 7月20日(月) ~ 8月 7日(金) 8月11日(火)予備日	講義 5月11日(月) ~ 5月22日(金)
	夏季休業 8月12日(水) ~ 9月6日(日)	夏季休業 8月12日(水) ~ 9月6日(日)	臨床実習(統合Ⅰ) 5月25日(月) ~ 7月17日(金)
	再試験(対象者のみ) 8月24日(月) ~ 8月31日(月)	再試験(対象者のみ) 8月24日(月) ~ 8月31日(月)	講義 7月20日(月) ~ 7月31日(金)
	講義 9月7日(月) ~ 12月18日(金)	講義 9月7日(月) ~ 12月18日(金)	合同就職説明会 7月29日(水)
後期	補講・定期試験期間 12月21日(月) ~ 12月25日(金) 1月 4日(月) ~ 1月22日(金)	補講・定期試験期間 12月21日(月) ~ 12月25日(金) 1月 4日(月) ~ 1月22日(金)	臨床実習(統合Ⅱ) 8月3日(月) ~ 9月25日(金)
	冬季休業 12月26日(土) ~ 1月3日(日)	冬季休業 12月26日(土) ~ 1月3日(日)	就職説明会 9月30日(水)
	再試験期間(対象者のみ) 2月3日(水) ~ 2月10日(水)	再試験期間(対象者のみ) 2月3日(水) ~ 2月10日(水)	講義および国家試験対策 9月28日(月) ~ 2月19日(金)
	実習オリエンテーション/ 実習振り返り 2月12日(金)/3月15日(月)	実習オリエンテーション/ 実習振り返り 2月12日(金)/3月15日(月)	第56回 国家試験 2月21日(日)予定
	見学実習 2月15日(月) ~ 3月8日(月)	生活機能演習 2月15日(月) ~ 2月26日(金)	
		評価経験実習/精神科実習 3月1日(月) ~ 3月12日(金)	卒業式 3月5日(金)
	春季休業 3月16日(火) ~ 3月31日(水)	春季休業 3月16日(火) ~ 3月31日(水)	

カリキュラム

令和2年度 実施予定 カリキュラム

学校法人 巨樹の会 小倉リハビリテーション学院 【理学療法学科 昼間コース】

分野	教育内容	指導要領	授 業 科 目	1年		2年		3年		時間	単位		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期				
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活	人文科学	心理学	30						30	2		
			基礎教養	30						30	2		
			対人関係演習Ⅰ	30						30	2		
			対人関係演習Ⅱ		30					30	2		
		自然科学	統計学					30			30	2	
			情報処理								30	2	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び 心身の発達	解剖学	解剖学Ⅰ	30						30	2		
			解剖学Ⅱ		30					30	2		
		生理学	生理学Ⅰ	30						30	2		
			生理学Ⅱ		30					30	2		
		運動学	運動機能学Ⅰ	30						30	2		
			運動機能学Ⅱ		30					30	2		
			運動機能学演習Ⅰ	30						30	2		
			運動機能学演習Ⅱ		30					30	2		
		人間発達学	人間発達学			30				30	2		
		疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	臨床医学総論	医学概論	30						30	2	
				病理学概論		30					30	2	
			臨床医学各論	整形外科学			30				30	2	
	内科学					30				30	2		
	神経内科学					30				30	2		
	臨床心理学				30					30	2		
	精神医学		30					30	2				
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論・医学	リハビリテーションと理学療法	30						30	2		
	専門分野	基礎理学療法学	理学療法学	基礎理学療法学Ⅰ	30						30	1	
基礎理学療法学Ⅱ					30					30	1		
生活機能演習						30			30	1			
臨床運動学			臨床運動学演習Ⅰ		30					30	2		
		臨床運動学演習Ⅱ				30			30	2			
理学療法評価学		理学療法評価学	評価学演習Ⅰ	60						60	2		
			評価学演習Ⅱ		60					60	2		
			評価学演習Ⅲ			60				60	2		
運動療法学		運動療法学	運動療法学演習		60					60	2		
			物理療法学		30					30	1		
		日常生活活動学	日常生活活動学演習Ⅰ			30				30	1		
			日常生活活動学演習Ⅱ				30			30	1		
		義肢装具学	義肢学			30				30	1		
			装具学				30			30	1		
		疾患別理学療法学	疾患別理学療法学	中枢神経系障害の理学療法学Ⅰ			60				60	2	
				中枢神経系障害の理学療法学Ⅱ				60			60	2	
				運動器系障害の理学療法学Ⅰ				60			60	2	
				運動器系障害の理学療法学Ⅱ					60		60	2	
内部系障害の理学療法学Ⅰ						60				60	2		
内部系障害の理学療法学Ⅱ							60			60	2		
小児疾患の理学療法学								30		30	1		
理学療法学技術演習Ⅰ							30			30	1		
理学療法学技術演習Ⅱ						30		30	1				
理学療法総合学習		理学療法総合学習						60	60	2			
地域理学療法学	地域理学療法学	生活環境学				30			30	2			
		地域理学療法学演習				30			30	2			
臨床実習	臨床実習	臨床実習					810		810	18			
* 基礎分野：講義15～30時間1単位 * 専門基礎分野：講義・演習15～30時間1単位 実習30～45時間1単位 * 専門分野：同上 * 臨床実習：45時間1単位				基礎分野		150	30	0	30	0	0	210	14
				専門基礎分野		180	210	120	0	0	0	510	34
				専門分野(臨床実習を除く)		90	210	330	420	0	60	1110	41
				臨床実習		0	0	0	0	810	0	810	18
				前後期小計		420	450	450	450	810	60	2640	107
				前後期合計		870		900		870			

シラバス

講義科目		統計学		
担当講師	中原 孝洋		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	単位数	2
教育目標 基礎的な統計処理を学習し、理学療法及び作業療法に必要な臨床研究の基礎を身につける。				
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)		
1	オリエンテーション	①臨床研究のデザインと研究の信頼性を理解する。 ②統計の4つの尺度とその意味を理解する。		
2	偏差値	①偏差値とは何か ②標準偏差と偏差値の関係 ③正規分布		
3	有意水準と仮説検定	①有意水準と仮説検定 ②片側検定と両側検定		
4	割合の検定	①二項分布の正規近似 ②p値		
5	t検定	①母集団と標本、平均と分散 ②標準偏差と標準誤差 ③t値とt分布		
6	カイ2乗検定	①観測度数と期待度数 ②カイ2乗検定		
7	推定の考え方	①検定と推定の違い ②中心局限定理		
8	割合と平均値の区間推定	①信頼区間		
9	オッズ比とリスク比	①リスク比の信頼区間 ②オッズ比の信頼区間		
10	演習①	練習問題		
11	演習②	練習問題		
12	相関と回帰	①相関、回帰とは何か ②回帰直線の求め方		
13	感度と特異度	①検定の信頼性 ② α エラーと β エラー ③感度と特異度		
14	統計の限界と誤用	①臨床的に重要とは何か ②定量的な判断		
15	まとめ	理解度にあわせて補足を行う。		
教科書	書籍名		著者	出版社
	医療統計わかりません		五十嵐中, 佐條麻里著	東京図書
発行年	2015年			
参考図書等				
授業方法	統計学の基本的な内容の講義および統計処理の演習を行う。	成績評価方法	定期試験にて評価	
履修上の注意	統計学は根拠に基づいた証明を实践するため必要不可欠で、科学的根拠に基づくりハビリテーションの基礎となる学問であり興味をもって臨むこと。√のついた計算機を用意すること。			

講義科目		人間発達学				
担当講師	川上 留理子			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験	総合病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標						
①身体、運動、認知、心理、社会性など各領域の正常な発達過程を理解する。 ②人間を生物学的存在としてでなく社会的存在としてとらえ、各段階の発達課題を理解する。 ③人間発達学を通じて幅広く豊かな人間観を身につける。						
No.	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	人間発達総論	①発達の原則、臨界期、発達段階を説明できる。 ②エリクソン、ピアジェ、フロイトの発達理論を理解する。 ③運動発達の理論を理解する。				
2	発達検査	①人間発達の見方を理解する。 ②発達検査の進め方の概要を理解する。 ③発達障害を呈する主な疾患について検査法選択・実施の概要を理解する。				
3	姿勢反射・反応	①原始反射、姿勢反射の意義を理解する。 ②反射中枢と出現・消失時期を理解する。 ③原始反射、姿勢反射の検査方法を理解する。				
4	胎児期の発達	①胎児の発達過程を理解する。 ②胎児期に出現する反射の確認を行う。				
5	新生児期の発達	①新生児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害とそのリハビリテーションの概要を理解する。				
6	乳幼児期の発達	①乳幼児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害とそのリハビリテーションの概要を理解する。				
7	幼児期の発達	①幼児期の運動発達を理解する。 ②主な疾患・障害とそのリハビリテーションの概要を理解する。				
8	上肢機能の発達	①上肢機能の発達を理解する。 ②目と手の協調性の発達を理解する。				
9	ADLの発達1（食事・排泄・更衣）	①食事の発達を理解する。 ②排泄の発達を理解する。 ③更衣の発達を理解する。				
10	ADLの発達2（遊び）	①遊びの発達を理解する。				
11	感覚・知覚・認知の発達	①感覚・知覚・認知の発達を理解する。				
12	言語・社会性の発達	①言語の発達を理解する。 ②社会性の発達を理解する。				
13	学童期の発達	①身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。 ②発達学的課題を理解する。				
14	青年期の発達	①身体、運動、認知、心理及び社会性の発達学的特徴を理解する。 ②発達学的課題を理解する。				
15	成人・老年期の発達	①青年期の特徴を理解する。 ②我が国の高齢化の特徴及び老年期の発達学的特徴を理解する。 ③成人期・老年期の発達課題を理解する。				
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年	
	イラストでわかる人間発達学		上杉 雅之 監修	医歯薬出版株式会社	2015年	
参考図書等	リハビリテーションのための人間発達学		大城 昌平 編	メディカルプレス	2014年	
授業方法	講義および演習方式で授業を行う。		成績評価方法	定期試験と授業への取組を総合的に評価		
履修上の注意	人間の発達を学ぶことは、広くヒトを捉える上で重要な基礎知識となる。また小児科学、子どもを対象とする理学療法・作業療法の評価学・治療学の基礎となる科目である。					

講義科目		整形外科学			
担当講師		新行橋病院医師		授業時間数	30
開講年次		昼間コース	理学療法学科 2年前期	単位数	2
教育目標 リハビリテーション対象疾患について疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。					
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)			
1	整形外科基礎知識	①正常な骨の発生と成長及び基本構造を理解する。 ②骨の修復と再生、骨の加齢変化について理解する。 ③関節・骨格筋・神経系の基本構造を理解する。			
2	整形外科的治療法	①診療の基本と検査の概要を知る。 ②保存療法の種類・目的・方法の概要を知る。 ③代表的な基本的手術法を知る。			
3	外傷総論	①捻挫と脱臼の違いを理解する。 ②骨折の分類と治癒過程を理解する。 ③骨折の症状・合併症及び治療の原則を理解する。			
4	骨折と脱臼①上肢 (小児骨折含む)	①受傷転機、好発部位、年齢、転移、合併症、治療を理解する。			
5	骨折と脱臼②下肢 (小児骨折含む)	①受傷転機、好発部位、年齢、転移、合併症、治療を理解する。			
6	末梢神経損傷	①末梢神経損傷の分類及び特徴、病態像を理解する。 ②末梢神経損傷の診断と治療を理解する。			
7	靭帯損傷	①代表的な靭帯損傷の症状・診断・治療を理解する。			
8	脊椎疾患	①頸椎疾患の検査、症状、年齢、治療を理解する。 ②胸腰椎疾患の検査、症状、年齢、治療を理解する。			
9	脊髄損傷	①脊髄損傷の概念を理解する。 ②脊髄損傷の受傷機転、病態を理解する。			
#	脊髄損傷	①脊髄損傷の症状を理解する。 ②脊髄損傷の治療を理解する。			
#	炎症性疾患	①軟部組織・骨・関節の感染症の代表的な疾患を理解する。 ②関節リウマチの症状・診断及び治療の概要を理解する。 ③関節リウマチ類似疾患を理解する。			
#	慢性関節疾患(退行性・代謝性)	①変形性関節症の病態・症状及び治療を理解する。 ②痛風の病態・症状・及び治療を理解する。			
#	代謝性骨疾患	①骨粗鬆症の病態・症状及び治療を理解する。 ②くる病・骨軟化症の病態及び治療を理解する。			
#	骨・軟部組織腫瘍 熱傷・切断	①骨腫瘍・軟部組織腫瘍の発生及び治療を理解する。 ②熱傷の深度と範囲による重症度、関節拘縮や変形を理解する。 ③切断の概念・評価・断端管理、合併症を理解する。			
#	先天性骨関節疾患 循環障害と壊死性疾患	①代表的な先天性骨関節疾患の病態を理解する。 ②四肢の循環障害、壊死性疾患の病態及び症状を理解する。			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	標準整形外科 第14版		井樋 栄三(編)	医学書院	2020年
参考図書等					
授業方法	講義形式	成績評価方法	定期試験にて評価		
履修上の注意	理学療法、作業療法臨床において対象となることの多い疾病であり、専門領域につながる重要な科目である。暗記だけでなく、疾病の成り立ちを理解するよう復習をして下さい。				

講義科目		内科学			
担当講師	新行橋病院医師		授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年前期	単位数	2	
教育目標 内科疾患について疫学及び予後、病因と症状(疾病の成り立ち)、検査および代表的な治療を理解する。					
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)			
1	内科学とは 内科的診断と治療の実際	①内科学の概念について理解する。 ②内科的診断における診察法とその臨床的意義について理解する。 ③臨床検査について、その内容、実施方法、意義を理解する。			
2	症候学	①主要な症候の概念とそのメカニズムを理解する。 ②主要な症候を生じる病態とその関連疾患を学習する。			
3	循環器疾患 ①	①虚血性心疾患、高血圧の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について理解する。 ②虚血性心疾患、高血圧をもつ患者の理学療法・作業療法を実施する際の留意点を知る。			
4	循環器疾患 ②	①正常な12誘導心電図を理解する。 ②主な不整脈について波形の特徴、循環導帯を理解する。			
5	循環器疾患 ③	①主要な循環器疾患の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について理解する。 ②循環器疾患をもつ患者の理学療法・作業療法を実施する際の留意点を学修する。			
6	呼吸器疾患 ①	①呼吸機能を測定する検査法と基準値について理解する。 ②呼吸リハビリテーションについて知る。			
7	呼吸器疾患 ②	①主要な呼吸器疾患の概念、病態生理、症状、検査、治療および予後について理解する。 ②呼吸リハビリテーションについて知る。			
8	消化管疾患	①主要な消化管疾患の症候、病態生理について理解する。 ②主な消化管疾患の概念、診断法、症状、治療法について知る。			
9	肝胆膵疾患	①主要な肝臓、胆道系、膵臓、腹膜疾患の症候、病態生理、症状について理解する。 ②主な肝臓、胆道系、膵臓、腹膜疾患の検査法、治療法を知る。			
10	血液・造血器疾患	①貧血、リンパ節腫脹、出血性病変などの主な症状について知る。 ②主要な血液疾患の概念、病態、診断法、予後について理解する。			
11	代謝性疾患 ①	①糖代謝、蛋白質代謝、脂質代謝のつながりを知る。 ②糖尿病、痛風の病態と臨床的特徴を理解する。			
12	代謝性疾患 ②	①主要な代謝性疾患の病態と臨床的特徴を理解する。 ②ビタミン欠乏症・過剰症の臨床的特徴を理解する。			
13	内分泌疾患	①ホルモンの作用機序を理解する。 ②主要な内分泌疾患の概念、病態、治療法を学修する。			
14	腎・泌尿器疾患 アレルギー疾患	①腎機能が障害されて起こる症状を理解する。 ②主要な腎疾患、泌尿器疾患の概念、病態、症状、検査法、治療法について理解する。 ③アレルギー反応のⅠ～Ⅴ型の生じ方と関連疾患について理解する。			
15	膠原病と類縁疾患、免疫不全症	①主要な膠原病と類縁疾患の症状、診断、治療について理解する。 ②免疫不全による疾患について理解する。			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版		大成 浄志	医学書院	2014年
参考図書等	病気がみえる vol.1 消化器	第5版	医療情報科学研究所(編集)	メディックメディア	2016年
	病気がみえる vol.2 循環器	第4版	医療情報科学研究所(編集)	メディックメディア	2017年
	病気がみえる vol.4 呼吸器	第3版	医療情報科学研究所(編集)	メディックメディア	2018年
授業方法	講義形式	成績評価方法	定期試験にて評価		
履修上の注意	近年、内科領域のリハビリテーションの重要性が高まっており専門分野の基礎となる重要な科目です。国家試験に出題されることの多い疾患を中心に疾病の成り立ちを理解するよう心がけて下さい。				

講義科目		神経内科学		
担当講師	新小文字病院医師 川上 留理子		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年前期	単位数	2
教育目標 各疾患の疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。				
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)		
1	神経内科学オリエンテーション	①神経内科学を学ぶ目的を理解する。 ②脳の構造と機能の概要を理解する。 ③中枢神経と末梢神経の違いを理解する。		
2	神経学的検査と臨床検査	①画像診断の基礎知識と診断基準を理解する。 ②脳脊髄液の検査と診断基準を理解する。 ③脳神経検査、身体機能検査の診断基準を理解する。		
3	神経症候学(1)	①頭蓋内圧亢進症状を理解する。 ②上位運動麻痺と下位運動麻痺の違いを理解する。 ③筋萎縮を理解する。		
4	神経症候学(2)	①錐体外路の機能を理解する。 ②錐体外路徴候を理解する。 ③錐体路徴候と錐体外路徴候の違いを理解する。		
5	神経症候学(3)	①運動失調の原因と病態を理解する。 ②運動麻痺と運動失調の違いを理解する。 ③感覚障害の分布と特徴を理解する。		
6	脳血管障害(1)	①脳血管障害の分類及び危険因子、病態を理解する。 ②脳血管障害の診断と治療の概要を理解する。		
7	脳血管障害(2)	①脳出血の発生機序、診断と治療及び予後、疫学等を理解する。 ②くも膜下出血の発生機序、診断と治療及び予後、疫学等を理解する。 ③脳梗塞の発生機序、診断と治療及び予後、疫学等を理解する。		
8	脳血管障害(3)	①水頭症の発生機序、診断と治療を理解する。 ②慢性硬膜下血腫の発生機序、診断と治療を理解する。 ③脳外傷の発生機序、分類、診断と治療を理解する。		
9	髄膜炎・脳腫瘍	①髄膜炎の病態及び症状を理解する。 ②脳腫瘍の部位と好発年齢及び予後の関係を理解する。 ③脳腫瘍の診断と治療を理解する。		
10	認知症	①認知症を伴う代表的な疾患を理解する。 ②脳血管性認知症とアルツハイマー病の違いを理解する。 ③代表的な認知症疾患の病態及び症状の特徴を理解する。		
11	変性疾患(1)	①パーキンソン病の病態及び症状を理解する。 ②パーキンソン症候群の病態及び症状を理解する。 ③パーキンソン病とパーキンソン症候群の違いを理解する。		
12	変性疾患(2)	①脊髄小脳変性症の病態及び症状を理解する。 ②多系統萎縮症の病態及び症状を理解する。		
13	脱髄疾患	①脱髄疾患の病態を理解する。 ②多発性硬化症の症状を理解する。 ③ギランバレー症候群の症状を理解する。		
14	神経筋疾患	①筋萎縮性側索硬化症の病態と症状を理解する。(神経原性) ②筋ジストロフィー症(典型例)の病態と症状を理解する。(筋原性) ③重症筋無力症の病態と症状を理解する。(神経筋接合部)		
15	疾病の成り立ちまとめ	学習の習熟度に合わせ補足		
教科書	書籍名		著者	出版社
	標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第5版 病気が見える7(脳・神経)第2版		川平 和美 編 医療情報科学研究所	医学書院 Medic Media
参考図書等				
授業方法	教科書にそって講義を行う。適宜画像を提示。	成績評価方法	定期試験にて評価	
履修上の注意	解剖生理学に関わらせながら授業の復習を行い確実に理解を深めて下さい。神経内科に関連する基礎・専門は国家試験出題率が高い領域です。			

講義科目		生活機能演習		
担当講師	松本 典久 井上 真太郎		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科 2年後期	単位数	1
教育目標 ①医療福祉施設において情報収集及び生活場面の観察を専門的視点をもって実施できる。 ②対象者と適切なコミュニケーションを図ることができる。 ③情報収集及び観察内容を専門用語を用いて記録することができる。				
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		
1	オリエンテーション	①生活機能演習の概要及び体験実習の目的を理解する。 ②リハビリテーション対象者の生活場面の活動制限を理解する。		
2	生活機能の実際	①生活場面の観察のポイントを理解する。 ②情報収集の具体的方法を理解する。		
3	体験実習①	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。		
4	体験実習②	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。		
5	体験実習③	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。		
6	体験実習④	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。		
7	体験実習⑤	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。		
8	体験実習⑥	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。		
9	体験実習⑦	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。		
10	体験実習⑧	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。		
11	体験実習⑨	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。		
12	体験実習⑩	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。		
13	体験実習⑪	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。		
14	体験実習⑫	①対象者に関する情報収集を行い記録できる。 ②対象者の生活場면을観察し記録できる。 ③対象者に対するPT・OT介入の実際を理解する。		
15	振り返りセミナー	①体験した症例の情報を整理し、生活機能全体の構造を検討する。		
教科書	書籍名		著者	出版社
	特になし			
参考図書等				
授業方法	体験実習及び事前事後セミナーを実施	成績評価方法	体験実習での成績および提出物、演習への取り組みを総合的に評価	
履修上の注意	医療福祉施設におけるリハビリテーション対象者の生活場面と関わり、傾聴と共感的な関係性を経験しPTOTとして対象者の生活状況を専門的視点で観察記録できるよう努めてください。			

講義科目		臨床運動学演習Ⅱ			
担当講師		林 輝真		授業時間数	30
開講年次		昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	回復期病棟において理学療法士としての実務経験あり
単位数		2			
教育目標		異常な活動・動作を分析し、問題点の理解を客観的に出来るようになることを目標とする。また、得られた測定結果に対して考察することが出来るようになることを目標とする。			
No.	講義計画	行動目標（学習目標）			
1	異常姿勢・姿勢分析①	①疾患別の特徴的な姿勢を理解する。 ②疾患別の画像を観察し記載する。			
2	姿勢分析②	①観察した内容について考察し記載する。 ②観察した異常姿勢について説明する。(発表)			
3	運動器系疾患の歩行分析①	①運動器系疾患の歩行の特徴を考える。 ②運動器系疾患の歩行を観察する。 ③運動器系疾患の歩行を模倣する。			
4	運動器系疾患の歩行分析②	①運動器系疾患の歩行観察内容を記載する。 ②観察した異常歩行の原因について考察し記載する。			
5	運動器系疾患の歩行分析③	①観察した運動器系疾患の歩行について説明する。			
6	中枢神経系疾患の寝返り・起き上がりの動作分析①	①片麻痺患者の寝返り・起き上がりの特徴を考える。 ②片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を観察する。 ③片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を模倣する。			
7	中枢神経系疾患の寝返り・起き上がりの動作分析②	①片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を記載する。 ②観察した内容について考察し記載する。			
8	中枢神経系疾患の寝返り・起き上がりの動作分析③	①観察した寝返り・起き上がり動作について説明する。			
9	中枢神経系疾患の立ち上がり動作分析①	①片麻痺患者の立ち上がりの特徴を考える。④立ち上がり動作を記載する。 ②片麻痺患者の立ち上がり動作を観察する。 ③片麻痺患者の寝返り・起き上がり動作を模倣する。			
10	中枢神経系疾患の立ち上がり動作分析②	①観察した立ち上がり動作について説明する。			
11	中枢神経系疾患の歩行分析①	①中枢神経系疾患の歩行の特徴を考える。 ②中枢神経系疾患の歩行を観察する。 ③中枢神経系疾患の歩行を模倣する。			
12	中枢神経系疾患の歩行分析②	①中枢神経系疾患の歩行観察内容を記載する。 ②観察した内容について考察し記載する。			
13	中枢神経系疾患の歩行分析③	①観察した中枢神経系疾患の歩行について説明する。			
14	中枢神経系疾患の歩行分析④・まとめ	①観察した中枢神経系疾患の歩行について説明する。 ②まとめ			
15	基本動作・歩行振り返り	①運動器疾患・中枢神経系疾患の基本動作・歩行を確認する。			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	動作分析 臨床活用講座 観察による歩行分析		石井慎一郎 月城慶一,他(訳)	ジカルビュー社 医学書院	2013年 2005年
参考図書等					
授業方法	講義と演習	成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	演習を通して運動機能学への総合的理解が必要となります。しっかりと復習して下さい。				

講義科目		評価学演習Ⅲ				
担当講師		松本 典久		井上 真太郎		
開講年次		昼間コース理学療法学科2年前期	実務経験	療養型病棟において理学療法士として実務経験あり	実務経験	回復期病棟において理学療法士として実務経験
授業時間数		60				
単位数		2				
教育目標		評価学演習Ⅰおよび評価学演習Ⅱにて学習した内容を踏まえ、理学療法が対象となる各疾患に特異的な評価項目を理解し、実施および記録できることを目標とする。				
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	姿勢制御とバランス反応	姿勢の制御について バランス反応とは	16	片麻痺機能検査 ①	Brunnstrom stage test(上肢)	
2	姿勢反射・反応	①外乱に対する反射・反応 ②リーチ動作時の反射・反応	17	片麻痺機能検査 ②	Brunnstrom stage test (手指・下肢)	
3	バランス評価 ①	バランス評価とは	18	片麻痺機能検査 ③	12段階式片麻痺機能テスト SIAS(Stroke Impairment Assessment Set)	
4	バランス評価 ②	FRT(Functional Reach Test)および TUG(Timed Up to Go)の原理と方法、臨床的意義	19	片麻痺機能検査 ④	SIAS(Stroke Impairment Assessment Set) NIHSS	
5	バランス評価 ③	BBS(Berg Balance Scale)の原理と方法、臨床的意義	20	骨関節系疾患の評価総論	評価の意義・目的 リスク管理	
6	歩行評価	歩行評価とは 10m歩行	21	股関節疾患の評価 ①	股関節疾患の評価について 股関節の整形外科テスト	
7	意識レベルの検査 精神状態の診かた	①意識レベルとは ②JCS、GCS ③認知検査	22	股関節疾患の評価 ②	股関節疾患の評価について 股関節の整形外科テスト	
8	中枢神経系疾患の評価総論	評価の意義・目的 リスク管理	23	膝関節疾患の評価 ①	膝関節疾患の評価について 膝関節の整形外科テスト	
9	脳神経検査 ①	脳神経の役割	24	膝関節疾患の評価 ②	膝関節疾患の評価について 膝関節の整形外科テスト	
10	脳神経検査 ②	脳神経検査の意義・方法・実技	25	足関節疾患の評価	足関節疾患の評価について 足関節の整形外科テスト	
11	脳神経検査 ③	脳神経検査の意義・方法・実技	26	脊椎疾患の評価 ①	脊椎疾患の評価について 脊椎疾患の整形外科テスト	
12	筋緊張検査 ①	筋緊張とは 評価の意義 Modified Ashworth Scale 深部腱反射との関連性	27	脊椎疾患の評価 ②	脊椎疾患の評価について 脊椎疾患の整形外科テスト	
13	筋緊張検査 ②	筋緊張検査の方法と記載法	28	上肢疾患の評価 ①	上肢疾患の評価について 上肢の整形外科テスト	
14	協調性検査 ①	協調性検査の種類、実技	29	上肢疾患の評価 ②	上肢の整形外科テスト	
15	協調性検査 ②	協調性検査の種類、実技	30	まとめ	まとめと復習	
教科書	書籍名		著者		出版社	発行年
	理学療法評価学 改訂第6版 脳卒中の機能評価 SIASとFIM		松澤正・他 千野直一		金原出版 金原出版	2018年 2015年
参考図書等	ベッドサイドの神経の診かた		田崎義昭		南山堂	2016年
授業方法	演習および講義		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	演習中心の科目です。知識だけでなく、身体を動かして技術を獲得しましょう。 また、練習相手は固定ではなく色々な人とペアを組んで練習しましょう。					

講義科目		日常生活活動学演習 I			
担当講師		波多野 浩子		授業時間数	30
開講年次		昼間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験	回復期病棟において理学療法士としての実務経験あり
教育目標		日常生活の基本として遂行される動作を取り上げ、それらの動作遂行に必要な条件を解説するとともに、ADL障害に対して動作の支援、援助方法を理解し実践する。self careの概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの活用および指導技術を習得する。			
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)			
1	ADLの概念と範囲	ADLの概念や範囲を理解する。ADLとQOLの関係を理解する。			
2	日常生活活動の運動学	静的基本動作の定義・分類を理解し実際の動作と結びつける。			
3	日常生活活動の運動学	動的基本動作の定義・分類を理解し実際の動作と結びつける。			
4	起居・移動動作について	重心や支持基底面の関係が動作に与える影響を理解し、動作支援におけるポイントを理解する。			
5	起居・移動動作について	寝返りを構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。寝返り動作を支援するポイントを理解する。			
6	起居・移動動作について	起き上がりを構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。起き上がり動作を支援するポイントを理解する。			
7	起居・移動動作について	立ち上がりを構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。立ち上がり動作を支援するポイントを理解する。			
8	起居・移動動作について	移乗を構成する動作を理解し、動作を阻害する因子を考察する。移乗動作を支援するポイントを理解する。			
9	self careについて	食事・整容動作の意義・構成する動作を理解し、必要な要素や指導の要点を理解する。			
10	self careについて	排泄動作の意義・構成する動作を理解し、必要な要素や指導の要点を理解する。			
11	self careについて	更衣、入浴動作の意義・構成する動作を理解し、必要な要素や指導の要点を理解する。			
12	移動補助具について(杖)	杖の構造・特徴・種類を理解し、実際に杖の処方ができる。			
13	移動補助具について(杖)	演習を通して杖歩行パターン・応用杖動作など障害に応じた指導ができる。			
14	移動補助具について(松葉杖)	松葉杖の構造・特徴・種類を理解し、実際に松葉杖の処方ができる。演習を通して松葉杖歩行パターン・応用松葉杖動作など障害に応じた指導ができる。			
15	移動補助具について(歩行器)	歩行器の構造・特徴・種類を理解し、実際に歩行器・歩行車の処方を行い障害に応じた指導ができる。			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	日常生活活動(ADL) 第2版		千住 秀明	神陵文庫	2007年
参考図書等	新版 日常生活活動(ADL)―評価と支援の実際―		伊藤利之・江藤文夫	医歯薬出版	2010年
	授業方法		成績評価方法	定期試験	
履修上の注意	演習が中心の講義です。自身の身体を使い理解を深めて下さい。				

講義科目		日常生活活動学演習Ⅱ			
担当講師		波多野 浩子		授業時間数	30
開講年次		昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	回復期病棟において理学療法士としての実務経験あり
教育目標		障害に応じた移動補助具を選択するとともにそれらの活用および指導技術を習得する。 self careの概念、位置づけを学び適切なADL指導を理解する。 ADL評価の意義および検査方法を理解する			
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)			
1	移動補助具について(車椅子)	車椅子の構造・特徴・種類を理解し、実際に車椅子の処方を行い障害に応じた指導ができる。			
2	移動補助具について(車椅子)	演習を通して車椅子の処方を行い障害に応じた指導ができる。			
3	移動補助具について(車椅子)	演習を通して障害に応じた車椅子介助ができる			
4	日常生活活動の評価	ADL評価の目的を理解する。できるADLとしているADLについて理解する。実用性とは何かを説明できる。代表的なADL評価を説明できる。			
5	日常生活活動の評価	Barthel indexの概要・使用方法を理解する。			
6	日常生活活動の評価	Barthel indexの概要・使用方法を理解しcaseを評価する。			
7	日常生活活動の評価	FIMの概要・使用方法を理解する。			
8	日常生活活動の評価	食事動作・整容動作・更衣動作についてのADL指導および評価上の注意点を理解する。			
9	日常生活活動の評価	排泄動作・入浴動作についてのADL指導および評価上の注意点を理解する。			
10	日常生活活動の評価	移乗動作・移動動作についてのADL指導および評価上の注意点を理解する。			
11	日常生活活動の評価	コミュニケーション障害・社会的認知項目について評価上の注意点を理解する。			
12	日常生活活動の評価	症例検討①			
13	日常生活活動の評価	症例検討②			
14	福祉機器について	リフト・特殊寝台などの構造・特徴・種類を理解し、障害に応じた指導ができる。			
15	日常生活活動 総括	学習の習熟度の合わせて不足部分を補う。			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	日常生活活動(ADL)第2版 脳卒中の機能評価SIASとFIM(基礎編)		千住 秀明 千野直一	神陵文庫 金原出版	2007年 2012年
参考図書等	新イラストによる安全な動作介助のてびき第3版		飛松 好子	医歯薬出版	2016年
授業方法	講義および演習		成績評価方法	定期試験	
履修上の注意	日常で行っている各動作が、どのような要素で成り立っているか、各自の日常生活を振り返りながら学習してください。				

講義科目		義肢学				
担当講師		吉村 将志			授業時間数	30
開講年次		昼間コース	理学療法学科	2年前期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり
教育目標		義肢学では、切断患者のリハビリテーションの流れを理解するために、切断の原因、義肢の種類、義肢の適合および判定、そして装着訓練・管理方法を学ぶ。				
No.	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	切断と義肢の基礎知識①	①切断・離断とは ②義肢 ③骨格・殻構造 ④切断高位 ⑤上肢下肢の切断原因・発生率 ⑥切断術と処理について理解する				
2	切断と義肢の基礎知識②	①切断術後のリハビリテーションの流れ ②術後管理 ③ベンチ・スタティック・ダイナミックアライメントの意義について理解する				
3	大腿切断	①大腿義足ソケットの種類と特徴 ②膝継手の立脚相制御 ③膝継手の遊脚相制御について理解する				
4	大腿切断	①膝離断の特徴・ソケット ②膝継手の種類・特徴 ③足継手の種類と特徴 ④大腿義足のベンチアライメントについて理解する				
5	大腿切断・膝関節離断	①大腿義足のスタティック・ダイナミックアライメント ②異常姿勢・異常歩行 ③膝離断用義足のアライメントについて理解する				
6	大腿切断の異常歩行	①異常姿勢・異常歩行について理解する				
7	下腿切断	①下腿義足ソケットの種類と特徴 ②下腿義足のアライメント ③異常姿勢・異常歩行について理解する				
8	サイム切断	①サイム義足ソケットの種類と特徴 ②サイム義足のアライメントについて理解する				
9	片側骨盤切断・股関節離断	①股義足の種類と特徴 ②片側骨盤切除用義足の特徴 ③股継手の種類と特徴について理解する				
10	股関節離断・足部切断	①股義足のアライメント ②足部切断の種類 ③足部部分義足の種類・特徴について理解する				
11	下肢切断のリハビリテーション	①下肢切断に対する評価項目と意義 ②義足装着前理学療法項目と意義 ③切断原因疾患別にみた理学療法上の留意点について理解する				
12	断端の合併症	①幻肢・幻肢痛・神経腫 ②幻肢・幻肢痛・神経腫に対する理学療法 ③切断高位で好発する拘縮 ④拘縮予防の理学療法について理解する				
13	下肢切断のリハビリテーション	①義足装着理学療法項目と意義 ②歩行練習の流れ ③荷重練習の重要性 ④ 応用歩行 ⑤起居動作練習について理解する				
14	上肢切断の特徴とリハビリテーション	①義手の機能的分類 ②手先具の種類と特徴③上肢切断に対する評価項目と意義 ④上肢切断に対する理学療法と意義について理解する				
15	まとめ	①大腿切断の異常姿勢・異常歩行 ②下腿切断の異常姿勢・異常歩行 ③上肢切断についてについて理解する				
教科書	書籍名		著者		出版社	発行年
	切断と義肢 第2版		澤村 誠志		医歯薬出版	2016年
参考図書等	15レクチャーシリーズ 義肢学		石川 朗		中山書店	2011年
授業方法	講義及び実習		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	もし四肢を失い義肢を装着したらどうなるか、ということについて想像しながら運動機能学・解剖学の知識を利用しながら学習して下さい。					

講義科目		装具学				
担当講師		吉村 将志			授業時間数	30
開講年次		昼間コース	理学療法学科	2年後期	実務経験	急性期病院において理学療法士としての実務経験あり
教育目標		装具学では、装具の種類、適応、そして適合を学び、更に対象者の運動能力や機能を理解した上で、必要な装具を選択できることを目標とする。				
No.	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	装具学総論	装具療法の目的や分類について理解する。 3点固定の原理と装具作製の流れについて理解する。 保険制度について理解する。				
2	下肢装具総論 短下肢装具(1)	下肢装具の分類と構成要素について理解する。 金属支柱付短下肢装具の構成要素について理解する。				
3	短下肢装具(2)	金属支柱付短下肢装具に用いられる足継手の種類・機能について理解する。 足継手機能に対する適応例(疾患・症状)について理解する。				
4	短下肢装具(3)	プラスチック短下肢装具の構成要素について理解する。 プラスチック短下肢装具の種類と適応について理解する。				
5	長下肢装具(1)	長下肢装具の基本的構造要素と種類について理解する。 長下肢装具に用いられる膝継手の種類・機能について理解する。				
6	長下肢装具(2) 免荷装具	長下肢装具の使用目的・効果について理解する。 PTB免荷装具の構造・機能・適応について理解する。 坐骨支持免荷装具の構造・機能・適応について理解する。				
7	股装具 膝装具	股装具の種類・構造・機能とその対象疾患について理解する。 膝装具の種類・構造・機能とその対象疾患について理解する。				
8	下肢装具のチェックアウト	下肢装具の適合を評価するために、チェックアウト項目とその方法を理解する。装具を装着し歩行など体験する。				
9	靴型装具と足底装具(1)	靴型装具を用いた理学療法が出来る様になるために、目的、基本的な構造や機能、各種補正について理解する。				
10	靴型装具と足底装具(2)	靴型装具を用いた理学療法が出来る様になるために、目的、基本的な構造や機能、各種補正について理解する。				
11	対麻痺用装具・ペルテス病用装具 先天性内反足用装具 先天性股関節脱臼用装具	小児疾患の病態と装具の関係性を理解する。				
12	体幹装具、側彎症装具(1)	体幹装具・側彎症装具それぞれの目的や対象疾患、基本的な構造や機能、種類について理解する。				
13	体幹装具、側彎症装具(2)	体幹装具・側彎症装具それぞれの目的や対象疾患、基本的な構造や機能、種類について理解する。				
14	上肢装具(1)	上肢装具の分類と目的、適応疾患、種類、基本的な構造・機能を理解する。				
15	上肢装具(2)	上肢装具の分類と目的、適応疾患、種類、基本的な構造・機能を理解する。				
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年	
	装具学 第4版		飛松好子、高嶋孝倫(編)	医歯薬出版	2013年	
参考図書等	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 装具学		石川朗、佐竹将宏	中山書店	2013年	
授業方法	講義及び実習		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	実際の装具を手にし、授業の内容と照し合わせ、装具の目的を理解できる様になる。障害に応じた装具の選択肢を想起出来るようになるため、知識と想像力を深めてもらう。					

講義科目		中枢神経系障害の理学療法学 I					
担当講師		宗野 亮		授業時間数	60		
開講年次	昼間コース	理学療法学科	2年前期	実務経験	総合病院において理学療法士としての実務経験あり		
教育目標		脳血管障害の発生機序と障害像を把握した上で、片麻痺に対する理学療法を理解する。					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)		No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	中枢神経系障害の理学療法総論	脳の可塑性と運動療法、基本的な機能予後・回復過程について理解する。		16	急性期の理学療法	急性期理学療法の実際について理解する。	
2	画像	基本的な脳画像の見かた、CT・MRIの分類について理解する。		17	回復期の理学療法	回復期の特徴を踏まえ、リスク管理、評価、目標設定について理解する	
3	中枢神経系障害の基礎解剖①	中枢神経・脳の構造と機能、脳動脈と灌流領域について理解する。		18	回復期の理学療法	回復期理学療法の実際について理解する。	
4	中枢神経系障害の基礎解剖②	辺縁系・基底核の構造と機能について理解する。		19	維持期・在宅期の理学療法	維持・在宅期の特徴を踏まえ、リスク管理、評価、目標設定について理解する	
5	中枢神経系障害の基礎解剖③	間脳・脳幹・小脳の構造と機能について理解する。		20	維持期・在宅期の理学療法	維持・在宅期理学療法の実際について理解する。	
6	中枢神経系障害の基礎解剖④	脳血管・脳室・脳脊髄液の構造と機能について理解する。		21	中枢神経系障害の理学療法について	急性期・回復期・維持期の理学療法の違いについて理解する	
7	中枢神経系障害の基礎解剖⑤	伝導路(上行路と下行路)の構造と機能について理解する。		22	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 (臥位姿勢・寝返り動作・起き上がり動作・床上動作)	
8	脳梗塞の病態	脳梗塞の概要、分類(機序・臨床病型・病変部位からの分類)について理解する。		23	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 (座位姿勢・立ち上がり動作・立位姿勢)	
9	脳出血の病態	脳出血の概要、各出血(被殻・視床・脳幹・小脳・皮質下出血)の病態について理解する。		24	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 (車椅子シーティング・移乗動作)	
10	くも膜下出血の診断と治療	くも膜下出血の疫学、画像、診断、検査、治療、3大合併症について理解する。		25	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 (歩行・階段昇降・応用歩行)	
11	画像診断	脳梗塞・脳出血画像について理解する。		26	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 (更衣動作・整容動作・排泄動作・入浴動作)	
12	まとめ	中枢神経系障害の理学療法 I をまとめる。		27	中枢神経系障害のADL指導	理学療法を理解する。 (食事動作・嚥下障害)	
13	中枢神経系障害の理学療法各論	脳卒中ガイドライン、ニューロリハビリテーション、ファシリテーションテクニックについて理解する。		28	その他の理学療法について	上肢機能障害、片麻痺の方に対する理学療法について理解する。	
14	中枢神経系障害の理学療法各論	中枢神経系障害の評価を理解する。		29	その他の理学療法について	痙縮に対する理学療法、体力低下に対する理学療法について理解する。	
15	急性期の理学療法	急性期の特徴を踏まえ、リスク管理、評価、目標設定について理解する。		30	まとめ	中枢神経系障害の理学療法 I をまとめる。	
教科書	書籍名			著者		出版社	発行年
	病気が見える7(脳・神経)第2版 ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション			医療情報科学研究所 潮見 泰蔵		Medic Media 羊土社	2017年 2012年
参考図書等	脳卒中理学療法の理論と技術 PT・OTのための画像のみかた			原寛美、吉尾雅春 山下 敏彦 監修		MEDICAL VIEW 金原出版	2013年 2016年
授業方法	講義および演習		成績評価方法	定期試験にて評価			
履修上の注意	脳血管障害の発生機序と障害像を理解するために、神経系の解剖をしっかり復習すること。						

講義科目		中枢神経系障害の理学療法学Ⅱ					
担当講師		松浦 優太			授業時間数	60	
開講年次		昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	急性期病院にて理学療法士として実務経験あり	単位数	2
教育目標		中枢神経系障害の理学療法学Ⅰにて学習した内容を踏まえ、高次脳機能障害そして、頭部外傷、神経難病の理学療法を理解する。					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)		No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	高次脳機能障害の総論	高次脳機能障害の概要、診察の実際、神経心理学検査について		16	パーキンソン病の予後について薬物療法	パーキンソン病の薬物療法について理解する。パーキンソン病の評価について理解する。	
2	高次脳機能障害の基礎知識	画像診断(脳葉の区分と溝・病巣)について		17	パーキンソン病の理学療法について	パーキンソン病の理学療法について理解する。	
3	失語・失読・失書について	失語・失読・失書の概要、リハビリテーションについて理解する。		18	パーキンソン病のADL指導について	パーキンソン病の基本動作やADL指導および家族指導について理解する。	
4	失行、行為・行動の障害について	失行、行為・行動の障害、リハビリテーションについて理解する。		19	運動失調症の病態について	小脳、前庭系、脊髄の構造と機能特性、運動失調の分類、伝導路について理解する。	
5	失認と関連症状について	失認と関連症状、リハビリテーションについて理解する。		20	運動失調症の病態について	運動失調の症状の特徴について理解する(片麻痺との違い)。	
6	半側空間無視について	半側空間無視の概要、評価、リハビリテーションについて理解する。		21	脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の病態について	脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の病態について理解する。目眩について理解する。	
7	病態失認・Pusher症候群について	病態失認・Pusher症候群の概要、リハビリテーションについて理解する。		22	小脳性運動失調の評価について	小脳性運動失調の評価について理解する。	
8	注意と注意障害について	注意の諸側面、臨床的検査、病巣、リハビリテーションについて理解する。		23	小脳性運動失調症の理学療法について	小脳性運動失調の理学療法について理解する。目眩の理学療法について理解する。	
9	記憶障害、遂行機能障害について	記憶の分類、検査、病巣、リハビリテーションについて理解する。遂行機能障害の概要を理解する。		24	小脳性運動失調症のADL指導について	小脳性運動失調の基本動作やADL指導および家族指導について理解する。	
10	認知症、せん妄について	認知症の概要、病型、リハビリテーションを理解する。		25	筋萎縮性側索硬化症の病態について	筋萎縮性側索硬化症の病態、進行の仕方、予後、症状について理解する。	
11	頭部外傷の病態について	頭部外傷(頭蓋損傷、局所性脳損傷、びまん性軸索損傷)の病態について理解する。		26	筋萎縮性側索硬化症の理学療法について	筋萎縮性側索硬化症の障害像、評価、リスク管理、理学療法について理解する。	
12	外傷性脳損傷による高次脳機能障害について	外傷性脳損傷による高次脳機能障害について理解する。		27	ギラン・バレー症候群の理学療法について	ギラン・バレー症候群の病態・評価、リスク管理、理学療法について理解する。	
13	頭部外傷の理学療法について	頭部外傷の理学療法について理解する。		28	多発性硬化症の病態・理学療法について	多発性硬化症の病態、障害像、評価、リスク管理、理学療法、予後について理解する。	
14	パーキンソン病の病態について	パーキンソン病の原因、病態生理、主症状を理解する。		29	その他の疾患について	重症筋無力症・多発性筋炎・多発性皮膚炎について理解する。	
15	パーキンソン病の予後について	パーキンソン病のADLおよび予後と経過を理解する。 (Hoehn-Yahrの重症度分類)		30	まとめ	高次脳機能障害、神経難病、他の中枢系障害の理学療法学Ⅱをまとめる	
教科書	書籍名		著者		出版社	発行年	
	ビジュアル実践リハ 脳・神経系リハビリテーション		潮見 泰藏		羊土社	2012年	
	高次脳機能障害学 第2版		石合 純夫		医歯薬出版	2012年	
	病気が見える7(脳・神経)第2版		医療情報科学研究所		MEDICAL VIEW	2017年	
参考図書等	標準理学療法学・作業療法学 神経内科学		川平和美		医学書院	2013年	
	PT・OTのための画像のみかた		山下 敏彦 監修		金原出版	2016年	
	日常生活活動(ADL)第2版		千住 秀明		神陵文庫	2007年	
授業方法	講義および演習		成績評価方法	定期試験にて評価			
履修上の注意	覚えることが多いので、しっかり予習・復習すること。						

講義科目		運動器系障害の理学療法学 I					
担当講師		増見 伸			授業時間数	60	
開講年次		昼間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験	整形外科領域において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標		運動器障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な骨関節疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	骨関節 外傷総論	骨折・脱臼・捻挫・靭帯損傷について理解する		16	変形性関節症①	変形性関節症の病態・症状・画像所見とリスク管理について理解する	
2	骨粗鬆症と高齢者の骨折	骨粗鬆症について理解する 高齢者の身体特性と骨折の特徴を理解する		17	変形性関節症（股関節①）	変形性股関節症の保存的治療と理学療法を理解する	
3	下肢の整形外科疾患総論（股関節）	股関節の解剖学、運動学的特徴について理解する		18	変形性関節症（股関節②）	人工股関節置換術後の理学療法を理解する	
4	下肢の骨折①	大腿骨近位部骨折の特徴、病態把握、問題点を理解する		19	変形性関節症（股関節③）	人工股関節置換術後の理学療法とADL指導を理解する	
5	下肢の骨折②	大腿骨近位部骨折の画像所見と治療・リスク管理を理解する		20	下肢の整形外科疾患総論（膝関節）	膝関節の解剖学、運動学的特徴について理解する	
6	下肢の骨折③	大腿骨近位部骨折の理学療法を理解する		21	変形性関節症（膝関節①）	変形性膝関節症の保存的治療と理学療法を理解する	
7	下肢の骨折④	大腿骨近位部骨折患者のADL指導を理解する		22	変形性関節症（膝関節②）	人工膝関節置換術後の理学療法とADL指導を理解する	
8	下肢の骨折⑤	骨盤骨折、膝蓋骨骨折、脛骨高原骨折、脛骨天蓋骨折など下肢の骨折について理解する。		23	膝関節疾患①	半月板損傷の病態・症状・画像所見と治療法、理学療法を理解する。	
9	上肢の骨折①	上腕骨の基礎解剖を理解する。 上腕骨近位端骨折の病態、分類、症状、画像所見を理解する。		24	膝関節疾患②	膝関節靭帯損傷の病態・症状・画像所見と治療法を理解する。	
10	上肢の骨折②	上腕骨近位端骨折の理学療法、リスク管理を理解する。		25	膝関節疾患③	前十字靭帯と後十字靭帯再建術後の理学療法を理解する	
11	上肢の骨折③	上腕骨骨幹部骨折、上腕骨遠位端骨折の病態、症状、画像所見と治療法、理学療法を理解する。		26	下肢の整形外科疾患総論（足関節）	足関節の解剖学、運動学的特徴について理解する	
12	上肢の骨折④	橈骨遠位端骨折、前腕骨骨折、手指骨折など上肢の骨折について理解する。		27	足関節疾患	アキレス腱損傷 足関節捻挫の病態・症状と治療法・理学療法について理解する	
13	肩関節疾患①	①肩関節の構造と機能を理解する ②肩関節の障害を理解する		28	骨端症	骨壊死の分類について理解する。 骨壊死の疫学特徴について理解する。	
14	肩関節疾患②	①肩関節周囲炎の病態を把握する。 ②肩関節不安定症の病態を把握する。 ③腱板損傷の病態を把握する。		29	スポーツ傷害①	スポーツ外傷・障害の病態を理解する スポーツ外傷・障害の理学療法を理解する	
15	肩関節疾患③	①肩関節疾患の評価を理解する ②肩関節疾患の理学療法プログラムを理解する		30	スポーツ傷害②	テーピング（膝・足関節）を理解する	
教科書	書籍名		著者		出版社	発行年	
	シンプル理学療法シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 整形外科術後理学療法プログラム		細田多穂 島田洋一・高橋仁美		南江堂 MEDICAL VIEW	2011年 2014年	
参考図書等	PT・OTのための画像のみかた 標準整形外科学 第14版		山下 敏彦 監修 井樋 栄二（編）		金原出版 医学書院	2016年 2020年	
授業方法	講義および実技を用いたグループワークを行う。			成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	解剖学、運動機能学の基礎知識の復習を行い、受講することが望ましい。						

講義科目		運動器系障害の理学療法学Ⅱ					
担当講師		林 輝真			授業時間数	60	
開講年次		昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	整形外科領域において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標		骨関節障害を生じる主な疾患の病態・症状・疫学・予後・一般的治療および理学療法への展開について学ぶ。代表的な骨関節疾患を理解するとともに、それに応じた理学療法を理解する。					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	慢性疼痛疾患	①疼痛のメカニズムおよび慢性痛と長痛を理解する。②評価と理学療法を理解する。③CRPSの病態と分類を理解する		16	脊椎疾患⑥	①腰椎疾患の評価を理解する ②腰椎疾患の理学療法プログラムを理解する	
2	関節リウマチ①	関節リウマチの病態・画像所見や症状特徴的な変形を理解する		17	脊椎疾患術後の理学療法	①術後の理学療法を理解する	
3	関節リウマチ②	関節リウマチの診断基準や評価を理解する		18	腰痛疾患の理学療法	①理学療法を実際に体験する ②ADL指導を理解する	
4	関節リウマチ③	関節リウマチの治療および理学療法を理解する		19	脊髄損傷①	①脊髄の解剖を理解する ②脊髄損傷の概論を理解する	
5	関節リウマチ④	関節リウマチ患者のADL指導を理解する		20	脊髄損傷②	①完全損傷と不全損傷を理解する	
6	末梢神経障害①	①末梢神経の構造と機能を理解する ②末梢神経障害の病態と分類を理解する		21	脊髄損傷③	①合併症を理解する	
7	末梢神経障害②	腕神経叢および顔面神経の末梢神経障害を理解する。		22	脊髄損傷④	①評価(Frankel分類・Zancolliの分類・ASIA)を理解する	
8	末梢神経障害③	上肢の末梢神経障害を理解する(橈骨神経、尺骨神経、正中神経麻痺)		23	脊髄損傷⑤	①頸髄損傷について理解する	
9	末梢神経障害④	下肢の末梢神経障害を理解する(坐骨神経麻痺、大腿神経麻痺、脛骨神経麻痺、腓骨神経麻痺)		24	脊髄損傷⑥	①胸髄損傷について理解する ②腰髄損傷について理解する	
10	末梢神経障害⑤	①末梢神経障害の評価を理解する ②末梢神経障害の理学療法プログラムを理解する		25	脊髄損傷⑦	①残存レベル別理学療法を理解する	
11	脊椎疾患①	①脊椎の構造と機能を理解する ②脊髄の構造と機能を理解する ③脊髄神経の構造と機能を理解する		26	脊髄損傷⑧	①頸髄損傷者の理学療法を実際に体験する	
12	脊椎疾患②	脊椎圧迫骨折、脊柱側弯症の病態、画像所見と理学療法を理解する		27	脊髄損傷⑨	①胸・腰髄損傷者の理学療法を実際に体験する	
13	脊椎疾患③	頸椎症、頸椎椎間板ヘルニアの病態、画像所見と理学療法を理解する		28	脊髄損傷⑩	①ADL指導を理解する	
14	脊椎疾患④	①頸椎疾患の評価を理解する ②頸椎疾患の理学療法プログラムを理解する		29	脊髄損傷⑪	①ADL指導を理解する	
15	脊椎疾患⑤	腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症の病態、画像所見と理学療法を理解する		30	熱傷	①病態を理解する ②評価を理解する	
教科書	書籍名		著者		出版社	発行年	
	シンプル理学療法シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト 脊髄損傷の理学療法 整形外科術後理学療法プログラム		細田多穂 武田 功 島田洋一・高橋仁美		南江堂 医歯薬出版 MEDICAL VIEW	2011年 2008年 2014年	
参考図書等	ここがポイント 整形外科疾患の理学療法 改訂第2版 動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション 標準整形外科学 第14版		富士武史 田中宏太佳・園田茂 井樋 栄二(編)		金原出版 医学書院 医学書院	2007年 2010年 2020年	
	授業方法	講義、グループワーク、実技を交えて実施する。		成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	解剖学、運動機能学の基礎知識の復習を行い、受講することが望ましい。						

講義科目		内部系障害の理学療法学 I						
担当講師		岡部 貴文		授業時間数	60			
開講年次	屋間コース	理学療法学科	2年前期	実務経験	急性期病院にて理学療法士として実務経験あり			
教育目標		代謝疾患および循環器疾患の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。						
No.	講義計画	行動目標(学習目標)		No.	講義計画	行動目標(学習目標)		
1	内部障害の理学療法とは	①内部障害とは何かを理解する。 ②内部障害の理学療法における概要を知る。		16	虚血性心疾患の病態、診断、治療	①虚血性心疾患の概念、病態、分類、心電図所見、検査所見、診断、治療を理解する。		
2	代謝と栄養	①栄養と代謝の概要を理解する。 ②糖質代謝とエネルギー産生を理解する。		17	心不全の病態、診断、治療	①心不全の概念、病態、分類、検査所見、診断、治療を理解する。		
3	メタボリックシンドロームの理学療法①	①メタボリックシンドロームの定義、診断、治療を理解する。		18	心臓リハビリテーション総論	①心臓リハビリテーション目的と意義、流れを理解する。②一次救命処置の手技が行える。		
4	メタボリックシンドロームの理学療法②	②メタボリックシンドロームの理学療法評価、理学療法介入を理解し、実践する。		19	循環器疾患の理学療法評価①	①診療録(カルテ)や記録から心機能に関連する情報を抽出できる。		
5	糖尿病の病態、分類、診断、治療	①糖尿病(DM)の現状(疫学)、病態、分類、診断、治療を理解する。		20	循環器疾患の理学療法評価②	②検査所見から重症度と心機能推察(リスク層別化)ができる。③運動機能が評価できる。		
6	糖尿病の合併症と治療	①DMの三大合併症を理解する。 ②DMの三大療法を理解する。		21	循環器疾患の理学療法評価③	④循環器疾患患者の理学療法評価を要約することができる。		
7	糖尿病の理学療法①	①持久力増強運動のFITTの原則を理解する。 ②DMの理学療法評価を理解する。		22	循環器疾患の理学療法①	①循環器疾患患者に対する理学療法介入の要点を理解する。		
8	糖尿病の理学療法②	③DMの理学療法を理解する。 ④DMのリスクを想定する。		23	循環器疾患の理学療法②	②リスク層別化に基づく、運動開始の判断、バイタルサインと生体反応の監視の要点を理解する。		
9	循環器系の解剖学・生理学	①心臓の構造と機能を理解する。 ②循環の基礎事項を理解する。		24	循環器疾患の理学療法③	③不良反应が出現した際に適切な処置ができる。		
10	運動耐容能とその評価①	①循環器系の調節機構、運動耐容の概要を理解する。 ②運動の循環反応を述べる。		25	大動脈疾患の病態と理学療法	①大動脈疾患の病態、診断、治療を理解する。②大動脈疾患の理学療法、リスクを理解する。		
11	運動耐容能とその評価②	③運動耐容能を評価する。 ④運動処方の実際を理解する。		26	心臓弁膜疾患の病態と理学療法	①心臓弁膜疾患の病態、診断、治療を理解する。②心臓弁膜疾患の理学療法、リスクを理解する。		
12	心電図の診かた①	①心電図の基本波形を理解する。 ②心電図の記録法を理解する。		27	末梢動脈・静脈疾患、リンパ系疾患の病態と理学療法	①末梢静脈・リンパ系疾患の病態を理解する。②末梢静脈・リンパ系疾患の理学療法を理解する。		
13	心電図の診かた②	③モニター心電図を理解する。 ④ホルター心電図を理解する。 ⑤心電図と循環との関係を知る。		28	腎疾患の病態、検査	①腎疾患の病態、治療を理解する。		
14	不整脈の診かた①	①心房細動、心房粗動、心室細動、心室頻拍、期外収縮、房室ブロック、脚ブロックを理解する。		29	腎疾患の治療、理学療法	②腎疾患の理学療法、リスクを理解する。		
15	不整脈の診かた②	①WPW症候群、発作性上室頻拍、洞機能不全症候群、洞房ブロック、人工ペースメーカーを理解する。		30	循環・代謝機能障がい者に対する教育、まとめ	①循環・代謝障がい者に対する助言・教育を理解する。②循環・代謝障がい者の理学療法をまとめる。		
教科書	書籍名		著者		出版社		発行年	
	理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝 内部障害理学療法テキスト 改訂第3版		石川 朗 細田 多穂		中山書店 南江堂		2010年 2017年	
参考図書等	病気が見える 循環器疾患		岡庭 豊		MEDIC MEDIA		2010年	
	フィジカルアセスメント徹底ガイド 循環心電図のABC		高橋 仁美 五島 雄一郎		中山書店 日本医師会		2011年 1999年	
授業方法	講義を主体として演習も一部取り入れる。		成績評価方法	定期試験にて評価する。				
履修上の注意	予習・復習を行い、多い情報量を記憶に定着させるような努力を必要とする。							

講義科目		内部系障害の理学療法学Ⅱ					
担当講師		岡部 貴文			授業時間数	60	
開講年次		昼間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	急性期病院にて理学療法士として実務経験あり	単位数	2
教育目標		呼吸器疾患および悪性腫瘍の発生機序とその障害像を把握した上で、それに応じたりハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する。					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)		No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	呼吸理学療法総論	運動と呼吸・循環反応の関係、呼吸不全の定義、呼吸の概念と呼吸リハの必要性について理解する。		16	呼吸器疾患の理学療法基本手技④	徒手的な呼吸助手法の実施を経験する(パニックコントロールを含む)。	
2	呼吸器系の解剖学	呼吸器系の構造、胸郭の構造、呼吸運動に関する筋について理解する。		17	酸素療法と呼吸理学療法	酸素療法の意義、目的、効果、適応、合併症、在宅酸素療法の流れについて理解する。	
3	呼吸器系の運動学	呼吸運動に伴う胸郭の運動について理解する。		18	人工呼吸療法と呼吸理学療法	人工呼吸の目的、効果、人工呼吸器の構造、基本モード、管理中の呼吸理学療法について理解する。	
4	呼吸器系の生理学	呼吸の役割、換気とガス交換、気道抵抗、コンプライアンスについて理解する。		19	急性・慢性呼吸不全の理学療法	急性・慢性呼吸不全の疾患、病態、外科術後の生体反応、呼吸理学療法の目的、効果について理解する。	
5	動脈血液ガス検査	動脈血ガスの目的、意義、基準値、動脈血酸素可能、換気能の指標を理解する。		20	慢性閉塞性肺疾患(COPD)の呼吸理学療法	慢性閉塞性肺疾患の病態、障害像(問題点)、呼吸理学療法の流れについて理解する。	
6	呼吸不全の病態と呼吸器疾患	呼吸不全、酸素化不全と換気不全、急性呼吸不全と慢性呼吸不全、代表的疾患について理解する。		21	吸引の概念と理論	吸引の目的、意義、適応、生体に与える影響、標準予防策について理解する。	
7	呼吸器疾患別動脈血液ガス検査	代表的呼吸器疾患の動脈血ガスの特徴、分析値の解釈、臨床病態の推測について理解する。		22	吸引演習	吸引の実施に至るまでの流れ、基本的な手順を理解し、状況に応じて実施を経験する。	
8	呼吸器疾患の理学療法評価①	肺機能検査の目的、意義、適応、疾患別特徴について理解し、実施を経験する。		23	呼吸器疾患の解釈と統合①	慢性閉塞性肺疾患の病態像を想定し、それらに必要な検査・測定、優先性、結果と解釈を理解する。	
9	呼吸器疾患の理学療法評価②	医療面接(病歴聴取・問診)、フィジカルアセスメント(視診、触診、打診、聴診)について理解する。		24	呼吸器疾患の解釈と統合②	慢性閉塞性肺疾患の病態像を想定し、それらに必要な検査・測定、優先性、結果と解釈を理解する。	
10	呼吸器疾患の理学療法評価③	運動負荷試験の目的、意義、適応、ADL・QOL評価、画像所見、情報収集について理解する。		25	呼吸器疾患の解釈と統合③	慢性閉塞性肺疾患の病態像を想定し、それらに必要な検査・測定、優先性、結果と解釈を理解する。	
11	呼吸器系の運動生理学①	運動時の呼吸反応、ガス交換比の変化、内分泌・代謝の生体反応について理解する。		26	呼吸器疾患の解釈と統合④	慢性閉塞性肺疾患を想定し、結果を統合して、問題点、目標設定、治療介入手段、予後予測を理解する。	
12	呼吸器系の運動生理学②	運動の生理学的効果、持久力向上のメカニズム、最大酸素摂取量と運動療法について理解する。		27	呼吸器疾患の解釈と統合⑤	慢性閉塞性肺疾患を想定し、結果を統合して、問題点、目標設定、治療介入手段、予後予測を理解する。	
13	呼吸器疾患の理学療法基本手技①	コンディショニングの目的、具体的方法、効果について理解し、実施する。		28	悪性腫瘍の概念と検査、進行、病期、ステージ	悪性腫瘍の概念、原因、分類、血液検査、画像検査、内視鏡検査、病理検査について理解する。	
14	呼吸器疾患の理学療法基本手技②	運動療法の意義、運動処方(FITT)、具体的方法、効果について理解する。		29	悪性腫瘍の治療(緩和ケア含む)と理学療法	手術・放射線・化学療法、理学療法の目的・目標、緩和ケアの概要、理学療法について理解する。	
15	呼吸器疾患の理学療法基本手技③	呼吸介助の目的、効果、排痰の目的、効果、排痰に必要な要素(物理的因子など)について理解する。		30	内部系障害の理学療法学Ⅱのまとめ	呼吸器、がんについての知識を振り返り、理解を深める。	
教科書	書籍名			著者		出版社	発行年
	理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸器内部障害理学療法テキスト 改訂第3版			玉木 彰 細田 多穂		中山書店 南江堂	2010年 2017年
参考図書等	標準理学療法学 内部障害理学療法学			吉尾 雅春、高橋 哲也		医学書院 中山書店	2013年 2012年
	動画でわかる 呼吸リハビリテーション ゴールドマスターテキスト 内部障害系理学療法学			高橋仁美、宮川哲夫、塩谷隆信 柳澤 健			
授業方法	講義を主体として演習も一部取り入れる。			成績評価方法	定期試験		
履修上の注意	予習・復習を行い、多い情報量を記憶に定着させるような努力を必要とする。						

講義科目		小児疾患の理学療法学			
担当講師		川上 留理子		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科	2年後期	実務経験	総合病院において理学療法士としての実務経験あり
教育目標		小児期に発症する疾患について、疾患の知識及び派生する障害像を理解するとともに、それに対するリハビリテーションの流れおよび理学療法を理解する			
No.	講義計画	行動目標（学習目標）			
1	正常運動発達	背臥位～腹臥位～座位～立位・微細運動の発達について理解する			
2	発達・運動発達の評価	発達検査、運動発達検査、日常生活および能力障害の検査について理解する			
3	正常姿勢反射の発達	中枢神経系の発達・姿勢反射について理解する			
4	脳性麻痺の概論	療育の理念・脳性麻痺の定義・原因・分類について理解する			
5	異常姿勢反射の発達	異常姿勢反射・運動発達障害について理解する			
6	痙直型両麻痺の概要	痙直型両麻痺の臨床症状・異常運動発達 について理解する			
7	痙直型両麻痺の理学療法	痙直型両麻痺の評価・理学療法 について理解する			
8	痙直型四肢麻痺・片麻痺の概要と理学療法	痙直型四肢麻痺の臨床症状・異常運動発達・理学療法 痙直型片麻痺の臨床症状・異常運動発達・理学療法 について理解する			
9	アトーゼ型脳性麻痺の概要と理学療法	アトーゼ型脳性麻痺の臨床症状・異常運動発達・理学療法について理解する			
10	脳性麻痺のまとめ	問題を解き、理解度を深める			
11	子どもの遺伝性疾患の概要	Duchenne型筋ジストロフィー・その他遺伝性疾患の疾患概要について理解する			
12	子どもの遺伝性疾患の理学療法	Duchenne型筋ジストロフィーの病期と理学療法について理解する			
13	子どもの整形外科疾患(二分脊椎・ペルテス病など)	二分脊椎・ペルテス病・発育性股関節形成不全について理解する			
14	その他の疾患(ダウン症)・胎児期の発達	ダウン症候群の運動発達と理学療法について理解する			
15	その他の疾患	その他の小児期に特有の疾患についての理学療法を理解する			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト		細田 多穂 監修	南江堂	2018年
参考図書等	写真で見る乳児の運動発達		Lois Bly (著), 木本 孝子, 中村 勇 (共訳)	協同医書出版	1998年
	PTマニュアル 小児の理学療法		河村 光俊 (著)	医歯薬出版	2002年
イラストでわかる 小児理学療法学		上杉 雅之	医歯薬出版	2013年	
授業方法	講義中心、必要に応じて演習を取り入れる。		成績評価方法	定期試験	
履修上の注意	予習、復習に努めてください。 授業で触れない教科書の章に関しては、発展項目として自主的に学習して下さい。				

講義科目		理学療法学技術演習 I			
担当講師		渡口 龍太		授業時間数	30
開講年次		昼間コース	理学療法学科 2年前期	実務経験	急性期・回復期・外来領域において理学療法士としての実務経験あり
単位数					1
教育目標		これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床実習で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、骨関節疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。			
No.	講義計画	行動目標 (学習目標)			
1	オリエンテーション	理学療法の過程、思考過程を理解する。			
2	疾患理解	大腿骨頸部骨折の病態を理解し、問題となる生活動作を推測する。			
3	必要な評価項目	大腿骨頸部骨折の病態を理解した上で評価の意義目的を考え、必要な評価項目を列挙する。			
4	症例提示	提示された症例情報をもとに、問題点を整理する。			
5	病態想起 1	症例情報を基に挙げた問題点から、生活像をイメージし問題点の優先順位を考え、仮説を立案する。			
6	結果の解釈 1	必要な評価の意義・目的を文章化し、その結果と日常生活上の動作との繋がりを考え、その原因や根拠を理解する。			
7	結果の解釈 2	解釈した内容をディスカッションし、統合記録にまとめる。			
8	統合作業 1	参加、活動、身体機能・身体構造の否定的因子や肯定的因子を挙げ、提示症例の最終的な生活像を総合的に考える。			
9	統合作業 2	提示症例の生活像について考えたことをディスカッションし文章化する。			
10	問題点の抽出とゴール設定 1	提示症例の全体像・問題点を整理し、目標設定を考える。			
11	問題点の抽出とゴール設定 2	提示症例の全体像・問題点を整理し、目標設定を考える。			
12	治療プログラム作成 1	ゴール達成のための治療を考える			
13	理学療法評価の実施 1	提示症例に対してのリスクをふまえ、理学療法評価を実施する。			
14	理学療法評価の実施 2	立案した治療プログラムを実施する。			
15	まとめ	骨関節疾患の病態を理解し、評価から治療プログラム立案までの臨床思考過程を整理する。			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	指定しない。				
参考図書等	書籍名		著者	出版社	発行年
	指定しない。				
授業方法	講義、グループワーク、実技		成績評価方法	定期試験80点 提出物・授業態度20点	
履修上の注意	評価学で学んできたことを呈示症例を用いて、統合していく学習を行うので、評価学の復習を事前に行っておくこと。また、疾患像に関しても他科目と並行して理解に努めること。				

講義科目		理学療法学技術演習Ⅱ			
担当講師		渡口 龍太		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科	2年後期	実務経験	急性期・回復期・外来領域において理学療法士としての実務経験あり
教育目標		これまで学内で履修した知識と技術の統合を図り、臨床実習で必要となる全体像を把握する能力や臨床的意思決定能力などを育成するために、中枢神経系疾患を題材として、評価から治療プログラム作成までの一連の理学療法行為を段階的に学ぶ。			
No.	講義計画	行動目標（学習目標）			
1	疾患理解	脳血管障害の病態を理解し、問題となる生活動作を推測する。			
2	必要な評価項目	脳血管障害の病態を理解した上で評価の意義目的を考え、必要な評価項目を列挙する。			
3	症例提示	提示された症例情報をもとに、問題点を整理する。			
4	病態想起1	動画を基に観察した内容と提示された症例情報を整理する。			
5	病態想起2	動画を基に観察した内容と提示された症例情報をもとに生活像をイメージし問題点の優先順位を考え、仮説を立案する。			
6	結果の解釈1	必要な評価の意義・目的を考え文章化し、その結果の解釈を考える。			
7	結果の解釈2	評価結果に対する解釈を文章化する。			
8	統合作業1	参加、活動、身体機能・身体構造の否定的因子や肯定的因子を挙げ、提示症例の最終的な生活像を総合的に考える。			
9	統合作業2	提示症例の生活像について考えたことを文章化する。			
10	問題点の抽出とゴール設定1	提示症例の全体像・問題点を整理し、目標設定を考える。			
11	問題点の抽出とゴール設定2	提示症例の全体像・問題点を整理し、目標設定を考える。			
12	治療プログラム作成	ゴール達成のための治療を考える			
13	理学療法評価の実施1	提示症例に対してのリスクをふまえ、理学療法評価を実施する。			
14	理学療法評価の実施2	立案した治療プログラムを実施する。			
15	まとめ	脳血管障害の病態を理解し、評価から治療プログラム立案までの臨床思考過程を整理する。			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	指定しない。				
参考図書等	書籍名		著者	出版社	発行年
	指定しない。				
授業方法	講義、グループワーク、実技		成績評価方法	定期試験80点 提出物・授業態度20点	
	履修上の注意				
評価学で学んできたことを呈示症例を用いて、統合していく学習を行うので、評価学の復習を事前に行っておくこと。また、疾患像に関しても他科目と並行して理解に努めること。					

講義科目		生活環境学			
担当講師		有田 実		授業時間数	30
開講年次	昼間コース	理学療法学科	2年後期	実務経験	回復期病棟において理学療法士としての実務経験あり
教育目標		障害や各福祉用具の特徴を理解した上で、生活環境の評価と住環境整備の流れを理解する。			
No.	講義計画	行動目標（学習目標）			
1	生活環境学とは	ICFにおける生活機能と環境因子におけるひと・もの・空間のつながりについて理解する。			
2	法的・制度的環境	社会保障制度と介護保険制度の概要について理解する。			
3	関連制度	ハートビル法、交通バリアフリー法、バリアフリーデザイン、ユニバーサルデザインについて理解する。			
4	生活とROM、日常生活上の注意点	①ADLに影響を及ぼすROM制限について理解する。 ②ROM制限がある場合のADL上の工夫について理解する。			
5	住環境整備の流れ、対策について	住環境整備の意義、流れ、基本視点について理解する。			
6	住環境整備の流れ、対策について	段差解消、手すりの設置、通行幅・スペース、建具の種類について理解する。			
7	部屋別アプローチ①	アプローチ、玄関、廊下、寝室の住宅改修について理解する。			
8	部屋別アプローチ②	脱衣場、洗面所、浴室、トイレ、階段の住宅改修について理解する。			
9	福祉用具について	福祉用具の概念と定義、種類、選定について理解する。 または、福祉機器展へ参加する。			
10	福祉用具について	福祉用具の概念と定義、種類、選定について理解する。 または、福祉機器展へ参加する。			
11	介護保険と住環境整備	介護保険を利用した住宅改修と福祉用具の利用について理解する。			
12	障害別住宅改修について	①脳卒中患者の住環境整備について ②脊髄損傷者の住環境整備について ③PD患者の住環境整備について			
13	事例検討①	環境整備によって生活上の問題を解消する流れを考える。			
14	事例検討②	環境整備によって生活上の問題を解消する流れを説明できる。			
15	まとめ	まとめ			
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年
	理学療法テキストX 生活環境論		千住 秀明 監修	神陵文庫	2006年
参考図書等					
授業方法	講義、演習、グループワークを実施		成績評価方法	定期試験	
履修上の注意	教科書をもとに授業内容の予習に努めること。				

講義科目		地域理学療法学演習				
担当講師	宗野 亮			授業時間数	30	
開講年次	屋間コース	理学療法学科 2年後期	実務経験	総合病院・訪問リハビリ領域において理学療法士としての実務経験あり	単位数	2
教育目標 1. 地域リハビリテーションにおける社会制度を説明できる。 2. 地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割について説明できる。 3. 地域リハビリテーションに関わる他職種のサービスについてその概略を説明できる。						
No.	講義計画	行動目標（学習目標）				
1	地域リハビリテーションの概念	①地域リハビリテーションの歴史を学び、考え方や定義を説明できる。 ②地域リハビリテーションの範疇(地域の捉え方)を説明できる。 ③地域包括ケアの概念を知る。				
2	地域理学療法の概念	①3つの保健医療圏を理解する。 ②地域理学療法の役割と連携の重要性を理解する。 ③生活行為向上マネジメントの重要性を理解する。				
3	社会保障制度について	①社会保障制度の意味を理解する。 ②社会保障制度の変遷を理解する。				
4	地域の社会資源について	①フォーマル、インフォーマルな社会資源の意味を理解する。 ②サービス提供主体による社会資源の分類を知る。 ③社会資源に関する諸制度を知る(医療、介護、障がい)。				
5	地域理学療法の関連法規 ① (医療保険制度)	①社会保障制度の中の位置づけを理解する。 ②医療保険制度と保険診療制度を理解する。 ③疾患別リハビリテーション制度を知る。				
6	地域理学療法の関連法規 ② (障害者総合支援法)	①障害者総合支援法の目的を理解する。 ②障害者総合支援法のサービスを理解する。 ③サービス利用の流れを理解する。				
7	地域理学療法の関連法規 ③ (介護保険制度①)	①介護保険制度の目的を理解する。 ②介護サービスの流れを理解する。 ③介護サービスの種類の概要を理解する。				
8	地域理学療法の関連法規 ④ (介護保険制度②)	①介護保険制度の目的を理解する。 ②介護サービスの流れを理解する。 ③介護サービスの種類の概要を理解する。				
9	地域理学療法の関連法規 ⑤ (介護保険制度③)	①介護保険制度の目的を理解する。 ②介護サービスの流れを理解する。 ③介護サービスの種類の概要を理解する。				
10	地域包括ケアの実際	①地域包括ケアシステムの概要を説明できる。 ②地域包括ケアシステムと理学療法の関連を知る。				
11	障がい者支援の実際	①障がい者支援における理学療法士の役割とその内容を理解する。 ②障がい者の地域生活支援を理解する。				
12	介護予防の実際	①NCD(認知症)予防、転倒予防の実際を知る。 ②介護予防における実践と理学療法士の役割を知る。				
13	事例検討	①症例を通して、地域における理学療法士の役割を具体的に知る。 ②症例を通して、地域における諸サービスのつながりを理解する。				
14	グループ発表	①症例を通して、地域における理学療法士の役割を具体的に知る。 ②症例を通して、地域における諸サービスのつながりを理解する。 ③発表を通して、地域理学療法の具体的な方法を理解する。				
15	地域で働く理学療法士に必要な資質 (まとめ)	①他職種連携の重要性を知る。②コミュニケーション能力の重要性を知る。 ③制度を知ることの重要性を知る。 ④個々のニーズを理解する柔軟性と行動力の重要性を知る。				
教科書	書籍名		著者	出版社	発行年	
	地域リハビリテーション学 第2版		重森 健太(編)	羊土社	2015年	
参考図書等	地域リハビリテーション論Ver.7		太田仁史(編)	三輪書店	2018年	
	授業方法		講義・演習	成績評価方法	定期試験	
履修上の注意	授業前後で該当箇所について予習復習を行うことを奨励する。					